

横浜市立市民病院 診療科からのメッセージ(vol.3)

発行：平成23年7月 横浜市立市民病院 患者総合相談室

循環器内科長

根岸耕二(ねぎし こうじ)

専門：冠循環(冠動脈疾患)と心機能(心不全)

当科で近年力を入れようとしているのは、冠動脈疾患に限らず全身の動脈硬化性疾患の早期発見、早期治療介入です。患者さんの高齢化にともない、動脈硬化性疾患の終末像といった症例に遭遇する機会が増えています。心不全で原因を精査したら冠動脈はカテーテル治療も困難なほど進行した動脈硬化、Cr 高値を経過観察していたらすでに腎動脈狭窄から片腎が萎縮、跛行があり脊柱管狭窄でよいと思っていたら足趾変色(閉塞性動脈硬化症による重症下肢虚血)、通院中の脳梗塞など早期介入が行われずに不可逆的障害の発症後に治療介入を開始することに、以前より疑問を感じていました。

ATIS(Athero Thrombosis)という考え方

アテローマ血栓症を共通の病態として発症する虚血性脳卒中、末梢動脈疾患(以前のASOと同義)、冠動脈疾患を一つの疾患群としてまとめた概念で、元慶応大学教授の池田康夫先生らが中心に提唱しているものです。「一つの臓器にアテローマ血栓症による病気が顕在化したら、他の臓器にも潜在的な疾患が進んでいる可能性が高い」ことを念頭において医療に当たらなければいけないということを医療従事者にも患者側にも啓蒙していくことが目標です。

当院での現状

冠動脈疾患を発症した患者さんに積極的に下肢の冷感・跛行症状がないかの問診、ABIに低下はないか、Cr上昇の出現時に腎動脈エコーをチェック、糖尿病・透析症例では頸動脈雑音の聴取・頸動脈エコーなど冠動脈以外の血管もスクリーニングを行っています。冠動脈疾患へのカテーテル治療は年間300例程度で推移に比して、下肢動脈のカテーテル治療は年間70例に増加、腎動脈のカテーテル治療は10例を超えてきました。それでも下肢切断を回避できない症例、腎臓がすでに萎縮を開始し狭窄解除が遅きに失する症例が見られます。

新たな試み“血管スクリーニング検査”

ひとつの科での取り組みには限界があります。7月から「頸動脈エコー(狭窄病変・プラークのチェック)、ABI測定、下腿動脈血流(速)波形」をセットにした“血管スクリーニング検査”枠を設置しました。

前脛骨動脈・後脛骨動脈の血流(速)波形をセットに入れた理由は、糖尿病や透析症例で既に下腿動脈の狭窄・閉塞を来たしていても、1本健全な動脈があるとABIが低値とならない症例が存在することが解ったからです。早期発見・早期介入を目標とする以上、検出の精度を向上する必要性があると判断しました。

まずは院内でATISに関連の深い神経内科・脳神経外科、腎臓内科・糖尿病内科と一緒に、ATISを発症した症例を対象に、他臓器のアテローム血栓症の早期発見を試みます。院内での運用で支障のないことを確認でき次第、病診連携枠の開設を予定しています。冠動脈疾患の早期発見目的で既に開設しています循環器スクリーニング検査枠(木・金曜日)と同様の運用を予定しています。

趣旨にご賛同頂ける先生方には、積極的にご利用頂ければと考えています。詳細は改めて患者総合相談室を通じて連絡をさせて頂く予定です。

将来の構想

本年度から心臓対応の新規MRI装置が稼働します。エコーに不応な症例での心機能検査、心電図に現れない小さな心筋梗塞や心筋繊維化巣の検出などに加えて、冠動脈の情報が得られる予定です。

従来から行われている冠動脈MDCTは造影剤の使用が必須、放射線被爆(年一回の検診は発癌リスクと関連)、高度石灰化症例では冠動脈狭窄の判断が困難などの問題点が指摘されています。本来は陰性適中率(検査で異常がない症例に、実際に疾患が存在しない確率)に最も優れる検査法であるMDCTを、狭窄の検出に積極的に利用している施設が多いことは問題と考えています。MRIで冠動脈狭窄の検出が実際に可能であれば、MDCTにおける3つの問題点は解決されます。MRIの稼働後に、検出精度の向上がどこまで可能か確かめていこうと考えています。

外来のご案内

最新の外来担当医師一覧表は、市民病院ホームページをご覧ください。また、診療科ごとの担当医師一覧表は、市民病院ホームページの各診療科のページをご覧ください(下記参照)。

初診外来は毎日午前中に行っていますが、予約患者さんが優先となりますので、緊急でない症例は初診紹介予約枠をご利用ください。その際は、患者さんに紹介状をお渡しいただき、ご予約をお願いいたします。

【地域医療機関の先生方がご予約する場合】 045-341-7224 (平日8時30分~17時)

【患者さんがご自身で直接ご予約する場合】 045-341-5268 (平日9時~17時)

※当日のご予約は受付しておりません。混み合っている場合は、当院代表番号へご連絡ください。

横浜市立市民病院

住 所: 〒240-8555 横浜市保土ヶ谷区岡沢町56番地

電 話: 045(331)1961(代表)

当院ホームページ: <http://www.city.yokohama.lg.jp/byoin/s-byouin/>

各診療科のご案内: <http://www.city.yokohama.lg.jp/byoin/s-byouin/shinryobumon/>

最新の外来担当医師一

覧: <http://www.city.yokohama.lg.jp/byoin/s-byouin/shinryobumon/pdf-shinryobumon/doctor.pdf>